



ふるさと資料紹介

= 58 =

史料と地名からみた 地区の歴史⑬

蜂屋 (一)

蜂屋の名が初めて史料に登場するのは、長寛元年(一一六二年)の古文書です。それは京都の陽明文庫が所蔵している荘園の貢納こうのうの催促状さいそくじょうで、そこには「蜂屋本庄」「同志津乃」と記されています。

一方、十一世紀末、京都のある寺院が建立された際に寄進された土地の目録に、「蜂屋南庄、北庄」の記載がありま

す。当時の「蜂屋庄」の範囲は、現在の太田地区から関市や坂祝町にまでおよぶ広い範囲で、それが南北に分割されていたようです。



このころ、蜂屋庄から領主に納めたものは、すだれ、ござ、台所用布、絹、祭司用の器具、鉢、瓶かめなどでした。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成八年三月分)

○ふいご、釜かまなど鍛冶関係資料 九点

(加藤克正さん/太田本町)

○味噌樽みそたる、木馬、背板せいたなど 六点

(砂場四郎さん/美濃市)

○古い教科書 一点

(堀部照子さん/中富町)

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/☎内四〇八)まで情報をお寄せください。